

乾癬の外用療法

東京女子医科大学皮膚科 常深祐一郎

KEY WORDS

- 乾癬
- ステロイド
- ビタミンD3
- タクロリムス

はじめに

乾癬には外用療法、光線療法、内服療法、生物学的製剤と多くの治療法があるが、基本となるのは外用療法である¹⁾²⁾。有名な「乾癬治療のピラミッド計画」³⁾でも、外用療法は土台を形成している(図1)。他のどんな治療を行う際にも、外用療法は必ず行う。そうすることにより、治療効果の増加や副作用の低減につながる²⁾。外用療法の主役はステロイド外用薬と活性型ビタミンD3外用薬(以下、ビタミンD3外用薬)である¹⁾。ステロイド外用薬は即効性があるが長期に使用すると局所副作用が出やすく、また、中止後の再燃も多い。一方、ビタミンD3外用薬は効果発現は緩やかであるが、局所副作用は少なく、寛解維持期間が長いという特徴をもつ¹⁾。これらの長所と短所を考慮し、治療の初期にはステロイド外用薬を主に使用し、徐々にビタミンD3外用薬主体の治療に移行するのが

基本の考え方である。これにより、寛解を維持しながら、局所副作用も防ぐことも可能となる。なお、ビタミンD3外用薬の効果はベリーストロングクラスのステロイド外用薬に相当するとされる¹⁾²⁾⁴⁾。よって、軽症例では最初からビタミンD3外用薬で治療を開始することもある¹⁾。また、適用外ではあるがタクロリムス外用薬も一部で使用されている¹⁾⁵⁾。

I. ステロイド外用薬

即効性の強い抗炎症作用をもつ¹⁾。乾癬の病態は免疫系からの各種シグナルにより表皮細胞が過増殖して表皮が肥厚し、未分化なまま角層へ押し上げられる状態である。ステロイドは主に免疫系を抑制し、一部表皮の過増殖も抑制する¹⁾。

1. ステロイド外用薬のランク

ステロイド外用薬にはランクがある

Topical therapy for psoriasis.
Yuichiro Tsunemi (准教授)